

ホタテガイ養殖管理情報

中層（10～15m層）で水温が23℃以上になっているので
稚貝の施設を水温の低い下層へ沈めて安定させましょう

1 海況

8月17日時点の陸奥湾の中層（10～15m層）の日平均水温は、図1のとおりで徐々に上昇してきており、23℃以上になっています。

2 養殖管理の注意点

(1) 稚貝のへい死メカニズム

水温が23℃を超えると成長は鈍り、25℃で成長がストップし、26℃を超えるとエネルギー不足からへい死の危険性が高まります。また、27℃以上になると、鰓による呼吸ができなくなり、急死します（図2、3）。



図2 稚貝の成長と生残率に与える水温の影響

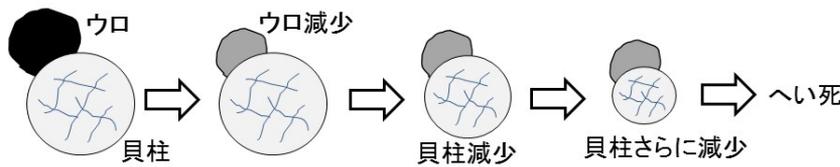


図3 高水温が続いた場合のホタテガイのへい死メカニズム

(2) 今後の注意点

各地区のブイの中層水温が23℃以上になっているので（下記、海ナビ@あおもり）、**稚貝採取後のパールネットはできるだけ水温の低い下層に沈めて安定**させましょう。

9月中旬頃に稚貝調査を実施し、稚貝分散の時期や注意点をホタテガイ養殖管理情報に掲載しますので、作業の参考にしてください。

今年は稚貝採取が早かったことで、稚貝のサイズが大きいことが予想されます。収容枚数が多いと異常貝が出やすくへい死につながるため、早めの稚貝分散が必要ですが、**中層水温24℃台で稚貝分散するとへい死の危険性が高まります。**稚貝分散は水温23℃を下回ってから行いましょう。

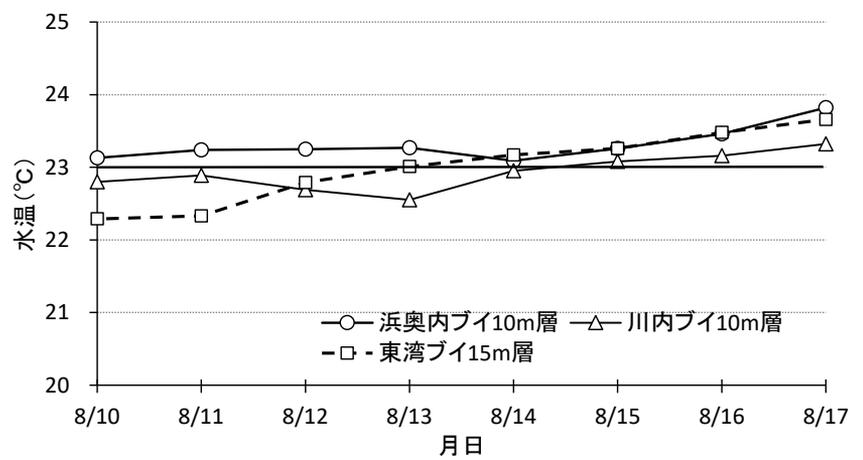
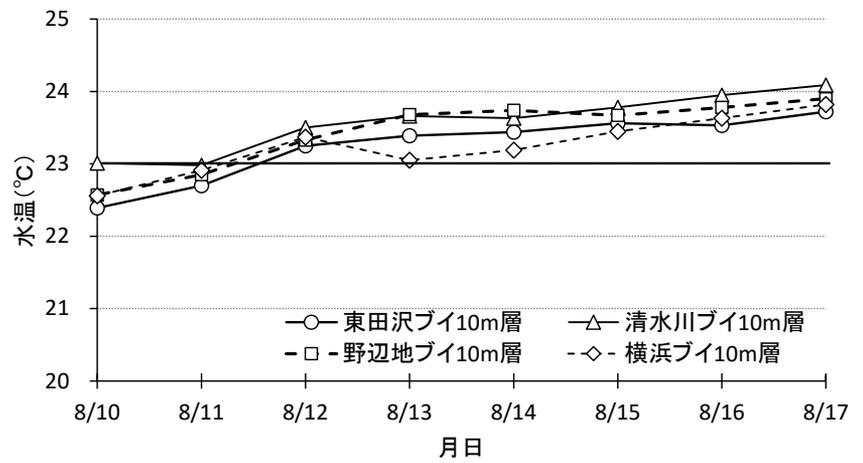
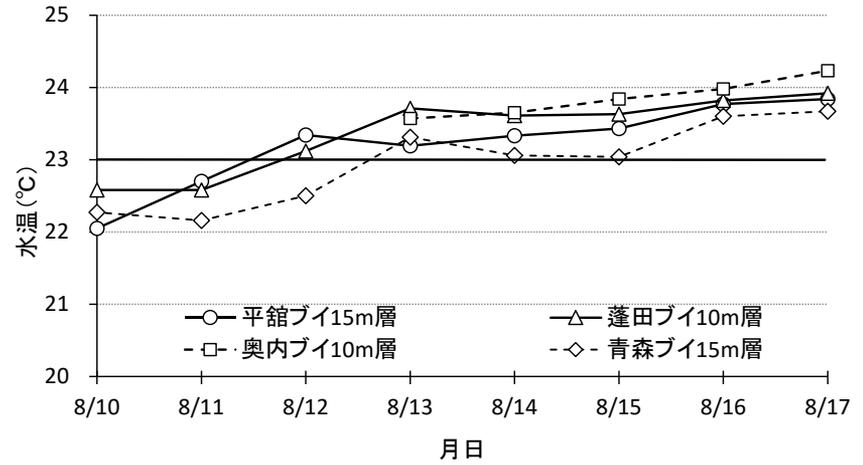


図1 海況自動観測ブイ（15m層）と水温観測ブイ（10m層）での日平均水温の変化

